

経営比較分析表（平成30年度決算）

岡山県鏡野町 国保病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	50床以上～100床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	7	-	訓	救へ輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
13,024	5,062	第2種該当	10:1	

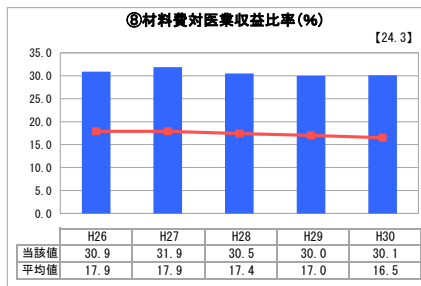
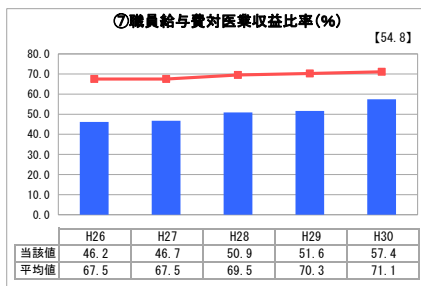
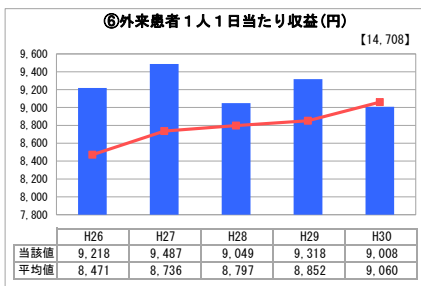
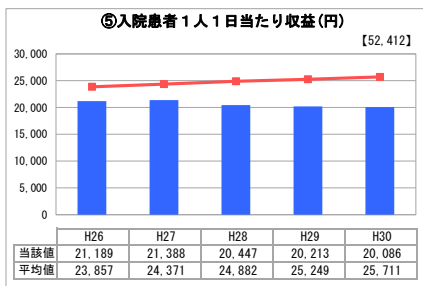
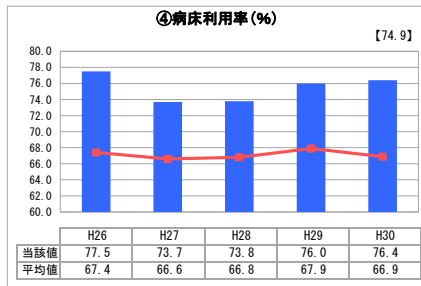
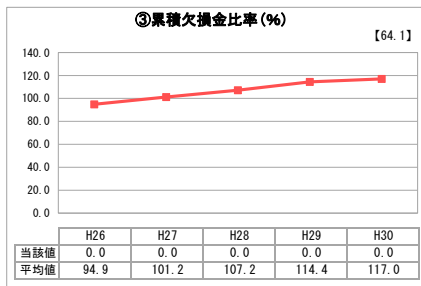
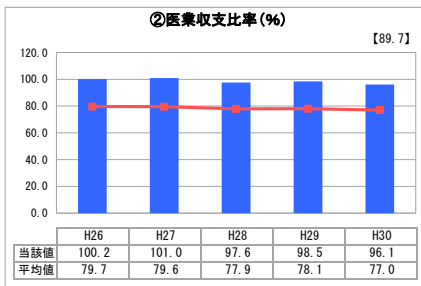
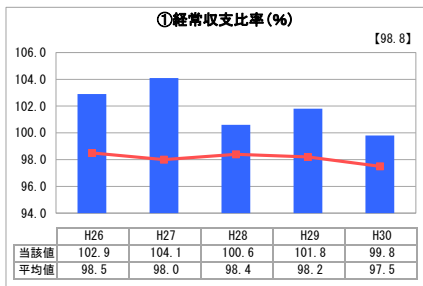
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 方…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

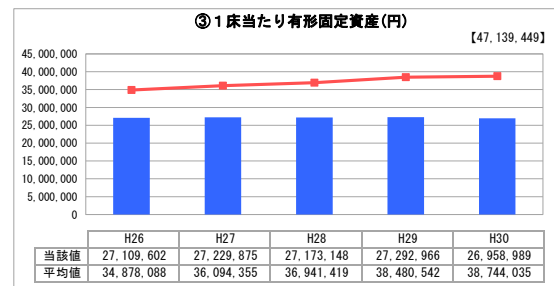
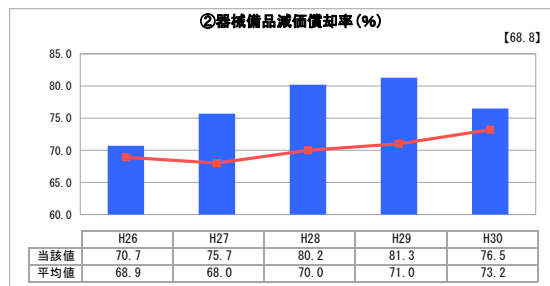
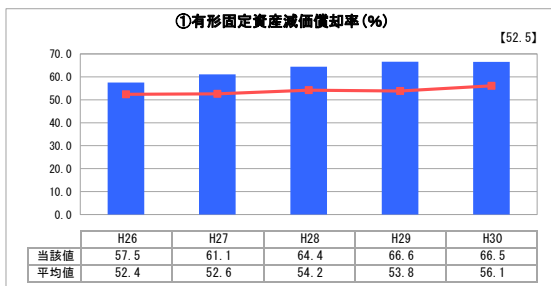
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
48	40	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	88
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
36	28	64

当該病院値（当該値）
■
類似病院平均値（平均値）
-
平成30年度全国平均
【】

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-年度	-年度	-年度

I 地域において担っている役割

へき地拠点病院として、鏡野町内3か所の診療所にそれぞれ2～3日程度当院医師を派遣し、へき地医療の安定供給を図っている。また、2次救急病院として夜間・休日問わず救急患者の受け入れを行っている。そのほか町で行われる乳児健診、乳がん検診等に医師を派遣している。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

医師数が今年度は常勤9名となり安定した医療が提供できるようになった。一般病床の一部を31年度から地域ケア病床に転換するための準備を行っており、看護師、理学療法士の増員により次年度からの算定が可能となった。療養病床については看護必要度を50%以上となるようベッドコントロール等で調整している。経費削減抑制対策として、引き続き専門の購買責任者による医薬品や診療材料等のコスト削減を図っている。

2. 老朽化の状況について

空調設備や給湯設備の老朽化が進み、年間度々の空調機修理や配管補修が行われた。次年度で配管の老朽検査を行い、今後の修繕計画を立てることとした。また、南棟のエレベーターが30年経過して老朽化しており、更新の必要がある。医療機器等の器械及び備品については、防災監視盤、電子カルテ、自動分割分包機、脳波検査装置等を耐用年数経過により更新した。

全体総括

30年度は地域包括ケア病床転換に向けて準備の年であった。施設基準を満たすため理学療法士、看護師等の増員、病室の改修、スタッフの視察・研修、コンサルティング会社との委託契約などの経費が病床転換のために使われた費用であった。収入は入院、外来ともに患者数は昨年度から増加しており、医業収益も増えている。今年度赤字に転じた大きな要因として人件費の増大が考えられる。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。